



① トチノキの並木  
(成田市三里塚、三里塚記念公園内)



② 貴賓館  
(成田市三里塚、三里塚記念公園内)



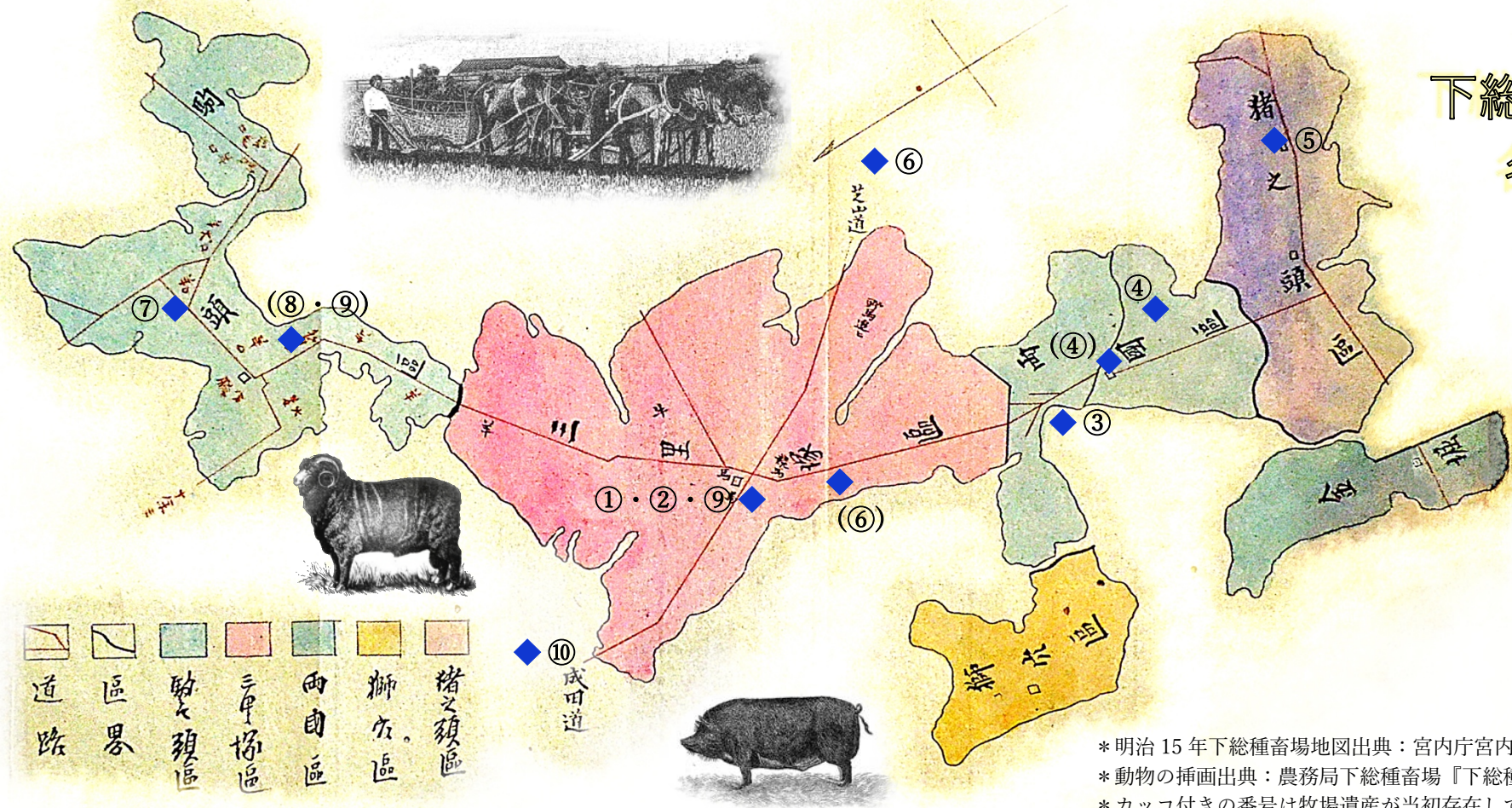
③ 下総種畜場大久保公遺徳碑  
(富里市十倉、神武神社内)



④ 大久保卿牧羊場選定の碑  
(富里市御料、豊受神社内)



⑤ 神明神社と開拓五十周年記念碑  
(富里市十倉)



⑥ 「えい駿塚」と「名馬吾妻の塚」  
(芝山町、芝山仁王尊観音教寺内)



⑦ 明治神宮遥拝所  
(成田市川上)



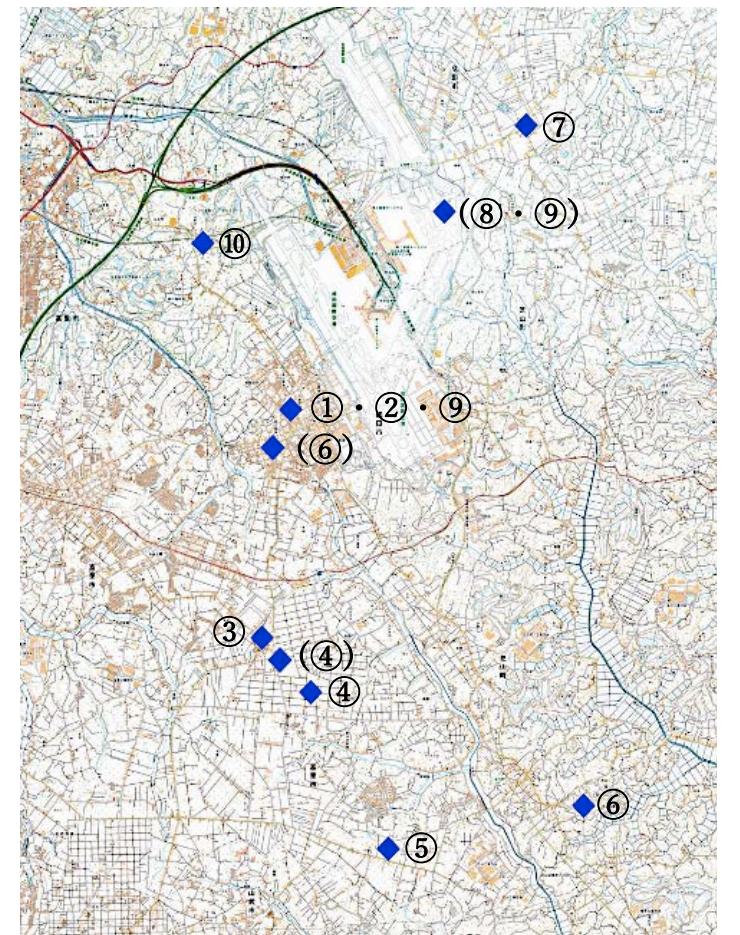
⑧ 駒之頭の御幸桜 (成田市東峰、成田国際空港用地内。宮内庁宮内公文書館所蔵「明治天皇大嘗祭御齋田主基ノ地写真他」より)



⑨ 「明治天皇御野立所」碑  
(成田市三里塚、三里塚記念公園内)



⑩ 辻正章の顕彰碑  
(成田市小菅)





<下総御料牧場遺産をめぐる旅への誘い>

明治 21 年に宮内省（現・宮内庁）が創設した下総御料牧場は、日本の畜産・酪農業のパイオニアとして、遠山地区の三里塚を中心とする一帯に広がっていました。その歴史は、明治 8 年の下総牧羊場・取香種畜場の創業（当時の所管官庁は内務省）に始まり、下総種畜場への統合、内務省から農商務省、宮内省への移管・御料化、大正期の体制刷新と行政整理、戦後開拓への用地提供、そして新東京国際空港（現・成田国際空港）の設置に伴う昭和 44 年の新牧場（栃木県高根沢地区）への移転で幕を下ろしました。

約 1 世紀にわたる牧場用地の変遷をたどってみると、時代の節目ごとにその規模を縮小していったことが分かります。明治 21 年の創設時には「三里塚区」「両国区」「駒之頭区」「猪之頭区」で構成されていたものが、閉場時には「三里塚区」を残すのみとなっていました。その一方で、かつて牧場が存在した地域やその周辺には、牧場の歴史を伝える史跡（牧場遺産）が残されました。

成田市三里塚の三里塚記念公園内にある「**貴賓館**」(②)は、牧場遺産の象徴的な存在でしょう。この建物は明治 9 年、当時の牧場事務所が置かれた「両国区」高堀（富里市御料）に「御雇外国人官舎」として建てられましたが、明治 22 年以降に「三里塚区」の現在地に移築され、大正 8 年に大規模な増改築が行われて今に通じる姿になりました。また、同公園内の「**トチノキの並木**」(①)もやはり明治 22 年以降に植樹され、現在のような大きな木々に育っていきました。

「三里塚区」とともに下総御料牧場のもう一つの中心であった「両国区」（富里市十倉・御料）には、明治 8 年の下総牧羊場の創業以来の歩みと、牧羊事業を主導した内務卿・大久保利通の功績を称えた「**下総種畜場大久保公遺徳碑**」(③)と「**明治八年前内務卿従三位大久保利通茲撰定牧羊場**」の碑（めいじはちねんぜんないむきやうじゅうさんいおおくぼとしみちここにぼくようじやうをせんていす）の碑（**大久保卿牧羊場選定の碑**、④）が残されており、牧場と地域の密接な関係を示す大切な文化財となっています。

一方、明治期の下総御料牧場の 4 つの区分のうち、「駒之頭区」（成田市多良貝～古込、多古町十余三）と「猪之頭区」（富里市十倉）は、明治期末から農民への貸付が始まり、大正時代末までには牧場用地から外れて民有地となりました。「駒之頭区」では、大正 13 年に「**明治神宮遥拝所**」(⑦)が住民の手で設置されました。現在の遥拝所入口の碑文には、遥拝所の設置によって地域の人々の心をつなげたという当時の人々の思いが記されています。同様に「猪之頭区」でも、「二区」集落で「**神明神社**」が建てられ、**開拓五十周年記念碑** (⑤)に御料地払い下げの経緯が記されました。

また、三里塚御料牧場記念館の入口前左脇には、「**明治天皇御野立所**」(⑨)という碑が据えられています。これは元々「駒之頭区」に建てられたもので、空港建設に伴い、現在の場所に移設されたものと思われます。この碑の経緯をたどると、明治 15 年 6 月 7 日、明治天皇が下総種畜場へ行幸され、「駒之頭区」（字駒之頭前）で西洋式農機による開墾作業の様子を天覧しました。その場所に翌年、行幸記念の桜が植えられ、「**御幸桜**」(⑧)と呼ばれて大切にされていました。御料地払下げ後の大正 14 年 7 月までには、桜の下に「明治天皇御野立所」の碑が建立され、一帯の畑は「御幸畑」と呼ばれていたようです。

そのほか、旧牧場用地以外で牧場ゆかりの遺産が残されている場所の一つに、芝山仁王尊観音教寺があります。境内には、御料馬のお墓である「**えい駿塚**」と、優秀な牝馬・吾妻の墓碑である「**名馬吾妻の塚**」(⑥)があります。これらは大正時代に牧場内の根木名厩付近に建立され、昭和 44 年の閉場時に現在地へ移設されました。さらに、同寺に隣接する集落墓地には、明治期の牧場関係者の墓碑も見られます。

もう一つ、牧場用地外の遺産であり知られていないのが、明治～大正期の牧場を支えた**技官・辻正章の顕彰碑** (⑩)です。辻は、現場責任者として御料牧場の基礎固めに尽力し、半生をかけて蓄積してきた畜産の知識を書籍にまとめて出版するなど、日本の畜産界に大きく貢献しました。多くの人々から慕われ、退職後には遠山村小菅に 1 町歩弱の土地の寄贈を受け、そこに功績を称える顕彰碑が建てられたのです。碑は現在も変わらず同じ場所にあって牧場の歴史を伝えてくれています。みなさん、ぜひ各地の牧場遺産に足を運び、その風景に在りし日の牧場の面影を探してみてください。

# 下総御料牧場を振り返る -各地に残る牧場遺産への誘い-



## 成田市立図書館

写真：絵葉書「下総御料牧場（正門）」